

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/2-8/9	8/9-8/16	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.029	不検出
		セシウム137	0.220	0.075
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.061	0.034
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.010
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	0.029	不検出
		セシウム137	0.210	0.098
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	不検出
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.031	不検出
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	不検出
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.085	0.035

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		8/2-8/9	8/9-8/16	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.021	不検出
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第67回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(平成29年8月2日～平成29年8月16日)

平成29年8月2日～8月16日の間、南相馬市の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム134(平均0.003mBq/m³)も137(平均0.05mBq/m³)と通常の空气中放射能レベルに比べても「放射能なし」といえるほど低い値で推移しており健康影響を心配することはありません。今後、大雨などで未除染の山地から汚染土壌が流れ込んで、居住区域の放射能濃度が多少上がることがあったとしても、その量は、昭和60年代に我が国に降下した大気圏内核実験による放射能レベルを大きく超えることはなく、安心して生活していただくと予想しています。